

～さがそうみらいプロジェクト～

キャリア教育だより

発行元：相模原市教育委員会キャリア教育推進チーム / 令和6年7月発行 No.1



第1回 キャリア教育推進委員会 開催

5月24日(金)に、第1回 キャリア教育推進委員会が行われました。
事務局から、これまでの成果と課題や令和6年度の重点 アウトカム評価によるPDCAサイクルの推進 中学校区や地域・関係機関との連携について、説明した後、委員による協議が行われました。



「キャリア教育推進委員会」

児童生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、キャリア教育の推進について協議する会。年に2回行われています。(R6は5月と1月)



【委員】学識経験者、関係機関の代表、小学校長会、中学校長会の代表、庁内関係各課の長等 21名

青山学院大学 原教授 筑波大学 藤田教授より(一部抜粋)



青山学院大学
原晋教授

駅伝競技部では、目標シートに対して、翌月それをフォローしていく振り返りシートを作成しており、「目標 振り返り 目標 振り返り」を繰り返している。

振り返りを行う際の考え方について、従来の日本教育は「フィードバック」、つまり、ダメなところを探し出し、その点を改善していくという考え方だったと感じる。

私は「フィードフォワード」という思考で物事を捉えている。定義すると、「フィードバック」とは「相手の行動に対して、改善点や評価を伝えて、軌道修正を促すこと」、「フィードフォワード」とは「未来完了形の自己改革を目的としたアイデアを、周囲の人(様々な立場の人)から集めて、色々な物事に取り組むこと」である。

キャリア教育は、まさしく「フィードフォワード方式」であり、「皆で物語を作っていこう」、「色々な立場の方々からの意見を得ながら進めていこう」という視点は、非常にすばらしい教育活動だと感じた。

私が担当する講義には、50名ほどの学生がいるが、これまでに「強み」を評価される教育を受けた経験があると答える学生は50%程度、40%強であり、「よさ」や「強み」を引き上げてくれる教育者になかなか出会ってこない現状にある。相模原市は、よい教育をされていると感じる。最近の学生を見ると、当たり前の回答を記述することは、わりとできるが、レポートを書かせたり、あるいはディベートをさせたりすると、なぜかトーンが下がる傾向にある。暗記型教育を否定するつもりはないが、相模原市のように、様々な視点で、皆で話し合う文化は、大切だと思う。この視点で教育を受けた生徒が間もなく大学に入ってくることになることについて、我々受け入れる側は、わくわくしている。



筑波大学
藤田 晃之 教授

これだけの皆様方が集まり、市を挙げて、キャリア教育の推進に取り組んでいることは、ものすごく大きなことだと感じる。

取組の成果について、胸を張れる成果が出ていることが、資料からわかる。「自分には良いところがあると思う児童生徒の割合」が76.1%（策定時）から82.7%（R5年 4月調査）、「将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合」が76.7%（策定時）から77.3%（R5年 4月調査）となっており、これは全国の自治体と比べると、めざましい伸びだと思われる。

コロナの関係で、自己効力感や自己肯定感を大きく下げってしまった自治体が多い。そのような状況を加味すれば、グラフは、「低迷」ではなく、「着実な伸び」という見方をしてよいと思う。相模原の先生方や地域の方々、皆様が、子どものキャリア形成を支えてくださっていることがよく分かる。それを証明できるのが、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」という質問において、伸びを示すグラフである。長所をきちんと把握して、指導してくれる先生方が、増えていっている。こういった面は、全国に胸を張り、示していただくべき、大きな成果であると感じた。

令和6年度の重点について、「アウトカム評価による PDCA サイクルの推進」と、「中学校区や地域・関係機関との連携」という2点が挙げられているが、この2点は、両者一体、裏表と言うべき関係であると思う。キャリア教育の4つの力（基礎的・汎用的能力）については、浸透してきているという話があった。今後はさらに進んで、例えば、「つながる力の中で、うちは何々する時に何々することができることだね。」というように、多くの先生方や子どもたちの共通のキーワードや合言葉になっていくとよいと感じる。

どこをめざしているのか、何を成したいのかということが、具体的な言葉で目標に落とし込まれているということが重要であり、その具体的な目標を、学校内の子どもたち、PTA の関係者とともに合言葉にしていくことが重要であると思う。PDCA サイクルを具体化するためには、具体的な目標を、いかに市内の各学校で言語化し、定着させていくのか、ということが重要な課題である。

子どもたちが自分たちの成長や気づきを記録に残した「キャリア・パスポート」の活用を、ぜひ進めていただきたい。小中高をつなぐ重要なツールとして、「キャリア・パスポート」がある。「指導と評価が一体となった手応えのあるキャリア教育の推進」の中に、「キャリア・パスポート」の活用も柱の一つとして意識化することも重要ではないか。

委員のご意見から、今年度のキャリア教育の重点やキャリア教育の推進のヒントがたくさん見つかりました。ぜひ、各校のキャリア教育の推進にお役立てください。

よさ・強み

具体的な目標

言語化

合言葉

より詳しい会議録はこちら



相模原市 キャリア教育

で検索！

https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/028/963/20240524.pdf